

1	会議名	第9回愛南町海業推進会議	
2	議題	愛南町の海業の推進について	
3	開催日時	令和7年7月23日(水) 13時30分から14時00分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5	傍聴者数	1名	
出席者			
6	委員氏名	大石 常也、大野 甲子彦、大森 安洋、栗林 賢一、 後藤 理恵、佐伯 謙、澤近 圭亮、関根 麻里、 谷岡 誠司、永元 将博、濱本 涼、深堀 毅、藤田 有紀、 前田 眞（オンライン）、宮下 武浩、向田 和広、森 裕之、 山本 正文、ヤング亜由美	
7	担当所属	所属名	水産課海業推進室
		担当職員 (職・氏名)	主幹 清水 貴光 室長補佐 尾崎 光弘 係長 広瀬 琢磨 主査 武藤 皓治 主事 賀屋 啓太、中村 一喜、小山 絵風 Umidas 清水 陽介 地域おこし協力隊 西村 健
8	その他の 出席職員	所属名	
		出席職員	愛南町長 中村町長 漁場漁村総合研究所 伊藤氏、竹山氏、高階氏 川上氏(オンライン) 久留米大学 崎田講師 愛媛県庁漁港課 伊藤係長、近藤技師 野村主幹(オンライン) 愛媛県庁南予地方局愛南水産課 高島課長 水産庁(オンライン) 計画・海業政策課 成田課長補佐、加藤係長 防災漁村課 浜辺課長補佐 上島町役場産業建設課 櫛部主事
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
藤田室長	ただ今から、第9回愛南町海業推進会議を開会します。本日の司会を務めます海業推進室長の藤田です。 開会に先立ちまして配布資料を確認します。 (資料確認) それでは開会に当たり、愛南町長 中村維伯から御挨拶申し上げます。
中村町長	(開会挨拶)
藤田室長	議事に入る前に、稲田委員、凝地委員、高橋委員、田中委員、李委員の5名から欠席の連絡をいただいていますので、御報告します。そして、今年度から新たに海業推進委員になられました2名の新委員の方に一言御挨拶をいただきます。
栗林委員	皆様こんにちは。地元のケーブルテレビ、愛媛 CATV 愛南局副局長の栗林と申します。今年の1月に松山から愛南町に参りました。愛南町のために、地元のために頑張っていきたいと思っています。
宮下委員	南宇和郡校長会の会長をしております宮下武浩と申します。城辺小学校に勤務しています。この会議では、子供たちのために意思決定させていただこうと思います。
藤田室長	本町が海業実装推進委託業務を締結しています一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所から伊藤様、竹山様、高階様にお越しいただいています。なお、川上様はオンラインにて参加いただいています。 愛媛県庁からは漁港課伊藤係長と近藤技師、愛南水産課からは高島課長にお越しいただいています。なお、野村主幹はオンラインにて参加いただいています。 水産庁計画・海業政策課海業振興室から成田班長、加藤係長、同防災漁村課からは浜辺班長がオンラインで参加いただいています。 最後になりますが、海業を推進する地区として、令和7年3月に認定された愛媛県の上島町役場産業建設課櫛部様にもオブザーバーとして参加いただいています。それぞれ海業に取り組む地域として、情報交換ができればと考えています。以上で御紹介を終わります。 本日は、全体を公開会議としていますが、外部記者のカメラ撮影、録音については、会議中のみとします。事務局の記録用の録音については、議事録等作成のため会終了まで行いますので、御承知のほどお願いします。 なお、委員の皆様におかれましては、発言の際は挙手をして

発言者	発言内容
山本座長	いただき、マイクを渡しますので、お名前を発言してからお話しいただきますよう、御協力をお願いします。 それでは議事に入ります。ここからは、懇話会設置等要綱の規定により、座長を水産課山本課長に引継ぎますので、よろしくお願いします。 委員の皆様におかれましては、大変御多忙のところ、本会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。要綱の規定に基づき、本会議の座長を務めます水産課長の山本です。進行等いろいろと御迷惑をお掛けすると思いますが、委員の皆様の御協力をお願いします。 それでは次第に沿って会議を進めます。まず、議題1のこれまでの海業推進会議について、事務局から説明をお願いします。
尾崎室長補佐	これまでの海業推進会議等について説明します。 令和5年の動きとして、3月に海業振興モデル地区に選定され、4月には水産課に海業推進室が設置されました。なお、7月に海業推進会議が発足し、1回目の海業推進会議を開催しました。その後9月、12月にも海業推進会議を開催し、令和5年は計3回会議を開催しました。 また、各プロジェクトにおきましては、12月には、四国で初めてJブルークレジット認証を取得しています。 続きまして、令和6年の動きとしては、3月に海業推進会議において、愛南町海業グランドデザインが策定されています。令和6年には、海業推進会議を1月、3月、6月、11月の4回開催し、6月にはグランドデザインの動画も公開しました。10月には、先進地視察ということで、海業推進会議メンバーが岩手県大槌町と田野畑村に行き、視察研修を行いました。12月には海業中間支援法人設立準備委員会を発足し、Umidas立ち上げに係る議論を繰り返しました。 令和7年の動きとしては、設立準備委員会での議論を繰り返した結果、中間支援法人 Umidas を設立しています。「なりゆきの未来からなりたい未来へ」ということで、先ほども申しました海業推進会議の開催に加え、多くの運営委員会を開催し、議論を繰り返してきました。令和5年度にグランドデザインの策定、令和6年度には、海業実装グランドデザインの実装ということで、具体的な行動とプロジェクトの深化を行いました。令和7年度には Umidas と連携したプロジェクトの拡大、深化を考えています。なお、Umidas の人材リンクへの参加と協力をお願いします。 続いて令和7年度海業に係る予算措置については、初めに、海業実装推進委託事業として予算 200 万円で、本日御出席の一

発言者	発言内容
	般財団法人漁港漁場漁村総合研究所に、グランドデザインの実装及び改善等のサポートを委託しています。詳しくは、後ほど業者から説明があります。 次に、海業振興事業支援補助金として予算 90 万円、海業の推進と地域の活性化を図るため、民間団体等の海業の取組を支援することとして、公募方式で1事業 30 万円を上限の定額としています。ここで、海業推進委託業務の委託業者から配付資料で業務内容を説明していただきたいと思います。
漁村総研 高階氏	漁村総研の高階と申します。まず、弊社と研究助成で協力していただいている久留米大学の崎田先生を紹介します。
崎田先生	福岡にある久留米大学で教員をしている崎田と申します。専門は地理学になりますが、漁業の資源管理や地域振興を専門に研究しており、漁村総研の研究助成の支援を受けて、主に今年度、愛南町の海業について調査をさせていただきたいと考えています。ただ、私の調査自体は、漁村総研とは別の形で個別に動くこととなりますので、夏から秋にかけて何度か訪問して皆さんにお話を伺うことやお願いすることがあると思いますので、よろしくお願いします。
漁村総研 高階氏	弊社としましては、愛南町海業実装推進業務についてと、海業立ち上げ支援事業について二つの事業の協力をさせていただくこととなります。 まず、愛南町海業実装推進委託業務についてですが、一つ目の目的として、愛南町海業のグランドデザインの実効性を高めることとしており、五つのプロジェクトを掲げています。 一つ目は、愛南町海業コンシェルジュ Umidas プロジェクトについて、Umidas が中間支援組織として事業の継続をしていくために、立ち上げから助言等を行っています。 二つ目は、インバウンド愛南ツアー生成プロジェクトとして、アンケート調査や、ヒアリング調査、SWOT 分析を行い、それから状況把握と改善点の抽出を行う予定です。 三つ目は、愛南町盛旬満喫スタンプラリープロジェクトですが、昨年度は行いましたが、今年度については、今後協議予定としています。 四つ目の愛南町ブルーカーボン創出プロジェクトについては、ユニッコリーの事業化を実装し、継続的なコンテンツとするために、ヒアリングやアンケート調査を実施するとともに、SWOT 分析をさせていただく、事業化可能性調査を予定しています。 五つ目に、愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクトとして、モニターツアー等やツアー後のアンケート等を実施するとともに

発言者	発言内容
山本座長	に、SWOT分析を行い、状況把握や、改善点の抽出を行う予定としています。 愛南町海業実装推進業務の二つ目の目的は、漁港施設等活用推進計画策定等の支援です。設定した区域内での活用推進を検討しています。 次に、海業立ち上げ支援事業についてですが、ウニッコリー事業において実装的にモニターツアーを実行して、ウニッコリー蓄養販売事業の検討を目的としています。 事務局及び漁村総研様からの御説明が終わりました。今の説明について御質問、御意見等が何かありましたらお願いします。なお、冒頭に事務局からもお願いがありましたが、発言の際は挙手していただき、事務局がマイクをお渡ししますので、名前を言ってからお話していただければと思います。何か御質問、御意見等はありませんか。
後藤委員	南予水産研究センターの後藤です。 お伺いしたいのは、ウニッコリーの蓄養や販売事業の支援です。ウニッコリーそのものが、季節性があるものだと思うのですが、この事業はどのように進めていかれるのでしょうか。
漁村総研 高階氏	季節性によるものなので、体験事業、販売事業の内容については、その時期によって異なります。冬頃に事業者等に協力を求め、体験事業の自主性を図る予定ですが、現時点ではまだ検討中ですので、詳細をお答えすることができません。
後藤委員	承知しました。
山本座長	次に、愛南町海業グランドデザインの進捗報告を議題とします。愛南町海業グランドデザインの進捗報告及び今年度以降のグランドデザイン全般の動きについて、事務局から説明をお願いします。その後、各プロジェクト主体の委員及び事務局から進捗の報告を行っていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。 まずは、愛南町海業グランドデザイン全般について、次に、人がつながる海から始まるインバウンド愛南ツアー生成プロジェクトについて、その次に、愛南町盛旬満喫スタンプラリープロジェクトについて、次に、愛南町ブルーカーボン創出プロジェクトについて、最後に、愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクトについての順番で、御報告をお願いします。
尾崎室長補佐	それでは事務局から説明します。初めに愛南町グランドデザインの進捗報告について説明します。令和6年3月に策定した

発言者	発言内容
広瀬係長	グラントデザインの中に掲げた各プロジェクトについては、その当時の段階での例示であり、未来の構想、アイデアも含むため、今後更新されていきます。現在、一つのプロジェクトの見直しを検討中であることをここで報告します。見直し検討中のプロジェクトについては、後ほど説明します。 続きまして、「インバウンド！愛南生成プロジェクト」については、実施主体である高橋委員が本日欠席のため、事務局から運営委員会の資料、議事録を基に3点、報告します。 一つ目は観光庁の補助金についてですが、不採択となったため、インバウンド事業が進んでいない状況であると報告を受けています。 二つ目は、南予集客キャンペーンについてで、鬼北町、宇和島市と協力して、山と海の事業を一緒になって進めたことで関係人口が増加している実感があると聞いています。その話の中で、海底熟成ワインも一つのコンテンツになればと考えているそうです。 三つ目は、岡山の大学や南海放送からの依頼についてです。今年度も、高校生へ愛南の環境の成り立ちを伝えた上で、海に潜ってもらう体験型学習を予定しているそうです。また、小規模でのこのようなツアーを、インバウンド向けにも計画していると話しておられました。現時点では、利益効率を求めて、平日にインバウンド、土日に国内ツアーの受入れ体制を考えているそうです。なお、欧州向けにダイビング客を誘客するために、海の保全を行いながらダイビングを行う、グリーンフィンズを習得できるよう動いていくそうです。 以上で「インバウンド！愛南ツアー生成プロジェクト」の報告を終わります。 続きまして、「愛南町盛旬満喫スタンプラリープロジェクト」についても、事務局から説明します。このプロジェクトは商工観光課の愛南町観光振興等イベント補助金で現在自走しており、びやびや広め隊のメンバーの了承も取れていないため、グラントデザインから外してもらいたいという意見が運営委員会時にありました。 続きまして、「愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト」の進捗状況について説明します。令和5年度に愛南町ブルーカーボン推進協議会が発足し、愛南漁協、真珠母貝養殖生産組合、愛媛大学南予水産研究センター、丸紅フォレストリンクス、愛南町の5団体が連携し実施してきましたが、事務局を務めていた丸紅フォレストリンクスが諸事情により脱会することになり、今年度から愛南漁協が事務局を務めることとなりました。 母貝生産組合は養殖いかだの管理、南水研は調査や学術的なサポート、町はマメタワラの調査のほか、J ブルークレジット

発言者	発言内容
	の申請業務を行うという役割分担で事業を進めています。 現在までの進捗状況ですが、6月中旬にマメタワラの調査を実施し、現在は申請に向けて資料の作成を行っているところです。今年度の見込みとしましては、ドローンによる調査で、養殖いかに繁茂するマメタワラの面積が約8.8ヘクタールと、昨年の約1.2倍、マメタワラの重量では約1,600トンで、昨年の1.6倍まで増加しています。認証数量に関しましては、JBEの評価によって変わってきますが、恐らく50トンを超える見込みです。 その他の取組として、環境省の取組で、四国地域エネルギー温暖化対策推進会議というものがあります。これは、四国地域におけるエネルギーや温暖化対策に係る情報交換や実態把握のほか、地域の温暖化対策への自主的な取組を促進することを目的としています。愛南町のブルーカーボンの取組がとてもユニークであるということで、環境省四国事務所から支援プロジェクトへの参加のお誘いがありました。 このことについて、事務局と相談し、推進協議会として応募を行っている状況です。今後につきましては、現在のところ、Jブルークレジットについて、令和5年度の認証分は購入していただいている状況ですが、令和6年度分はそのまま残っているような状況です。委員の皆様の中に、もしJブルークレジットについて購入いただける方がいらっしゃいましたら、愛南町の実業推進と真珠母貝養殖業の持続化のため、御協力をお願いします。
清水主幹	続きまして、ぎょしょくツーリズムの進捗について説明をします。令和6年度は、三つの大学を受け入れてモニターツアーを行いました。このモニターツアーのアンケートの分析結果を基に、令和7年度からは、一般社団法人 Umidas が主体となり、ぎょしょくツーリズムを深化、実装していきます。今年度は、現時点で大学からの受入れ依頼はありませんが、6月1日にうわじま圏域子ども観光大使のかつお薫焼き体験を Umidas の主催で行っています。今後もぎょしょく普及推進協議会等と連携してぎょしょくツーリズムを進めてまいりたいと考えています。
山本座長	事務局からの報告が終わりました。ここまでの報告、また全般を通じて、何か御意見、御質問等はありませんか。
大石委員	ブルークレジットの認証についてですが、魚神山網代地区がこのプロジェクトに入っていないのはどうしてでしょうか。マメタワラの重量は大変大きいようですが、お金に換算するとどれぐらいになっているのかお伺いします。

発言者	発言内容
広瀬係長	現在、当プロジェクトの申請は、藻捨て場がある地区を選んで行っています。魚神山地区、網代地区には藻捨て場がないと伺っており、当プロジェクトに入っていない状況です。販売した場合のお金についてですが、令和5年度に販売した5.9トンは、1トン当たり9万円、令和6年度に販売した34.8トンは、入札が今までと少々異なる取引ではありますが、1トン当たり5万円、税込み55,000円で公募を出しています。
山本座長	ほかに御質問がないようでしたら、ここで事務局から本プロジェクトにつきまして、新たな提案がありますので、説明をお願いします。
尾崎室長補佐	愛南町きらめき海道プロジェクト案を提案します。この案は、先ほど申し上げたスタンプラリープロジェクトに代わるものを何か準備できないかということで、事務局が考えたものです。スタンプラリープロジェクトにも相談し、愛南町の海岸線や豊かな海の幸を「きらめき」という言葉で表現し、訪れる人々に感動と輝きを与える場所であることを示しました。また、「海道」という言葉には、海沿いの道のりや体験をイメージし、愛南町内の観光に係ること全てを取り込みたいという事務局の意見を込めました。 これはあくまでたたき台で、今後、本会議終了後、運営委員会等で皆様と審議した中で、次回には確定してグランドデザインの中に組み込めればと思い、今回、たたき台としてご提案しました。御審議のほどよろしくをお願いします。
山本座長	海業グランドデザインにおける新たなプロジェクト案について、事務局から説明がありました。この件につきまして、何か御意見、御質問等はありませんか。
大石委員	資料の中にヒオウギ貝が掲載されていますが、ヒオウギ貝の養殖業者は、実際にはほぼいない状態です。その状況下で資料にヒオウギ貝を掲載した経緯をお伺いします。
尾崎室長補佐	資料にヒオウギ貝を使用したのは、色とりどりで目立って良いと考えたためです。ヒオウギ貝養殖業者が少ないということは、把握していませんでした。ニュース等の報道では、ヒオウギ貝の商品の販売はあると伺っていましたが、業者がいらないということであれば、資料におけるヒオウギ貝の使い方を今後考えていきたいと思えます。ヒオウギ貝以外にカキ等を取り入れていきたいと考えています。

発言者	発言内容
山本座長	これはあくまでも案ですので、今度の運営委員会で資料のレイアウト等を整えていきます。ただ今の大石委員の御意見も踏まえた上で、今後、この案について協議を進めていければと思います。 ほかに御質問等がないようでしたら、次に、一般社団法人 Umidas について事務局からの報告をお願いします。
一般社団法人 Um i d a s 清水氏	一般社団法人 Umidas の活動の進捗状況について報告します。 一般社団法人 Umidas は、ぎょしょくと観光による地域愛の醸成と地域活性化を図る事業の推進を担う中間支援組織として、令和 7 年 3 月に設立されました。事業概要と進捗状況ですが、今年度の事業費は、愛南町海業振興事業支援補助金 1,650 万円、海業取組促進事業 500 万円、ぎょしょくツーリズム委託事業 350 万円を基にして事業を展開していこうと考えています。今年度行う事業ですが、次の 3 点を重点的に行っていきたいと考えています。 まず一つ目は、ぎょしょく体験プログラムの構築、実証試験ですが、こちらでは体験コンテンツの検討や構築、体験プログラムの構築、モニターツアーの実施・運営・検証・改善を実施していくこととしています。Umidas では、旅行業をまだ営んでおらず、旅行業を営んでいる着地型観光の実績を有する事業者の一部委託をする予定としています。進捗状況としては、体験提供者や団体への協力依頼や協力体制を構築して行っています。また、体験コンテンツや宿泊施設等の情報を収集して、一覧表の作成を現在進めているところです。そのほか、体験プログラムの現地視察やアンケート調査の実施を随時行っています。 二つ目は、短期体験コンテンツをガイドする人材育成システムの構築です。e-ラーニングシステムによる講義や現地実習、確認テストの実施によるガイド人材登録システムの構築を考えており、教育研究機関等の一部委託することを予定しています。進捗状況としましては、まず優先的に実装する体験コンテンツを決定し、そのコンテンツに見合う人材育成プログラムの構築に向けて動いています。 三つ目は、来訪者や関係人口の増加につながる町の PR 活動です。日経ナショナルジオグラフィック 30 周年企画へ掲載し、海のテーマで Umidas が協賛することとなっています。進捗としては、愛南町での現地取材を 5 月 26 日から 28 日までに行いました。現在、原稿を校正中で、9 月号に掲載予定で進めています。また、Umidas を周知させる上でロゴマークも必要ということで、町内でロゴマークの案を募集しました。案を集計して、皆が思う Umidas のイメージを基にして、7 月末をめど

発言者	発言内容
山本座長	にロゴマークの完成を目指しています。そのほか、随時会議や講演等のイベントに参加して、愛南町の事業の取組などをPRしています。 一般社団法人 Umidas について事務局から説明がありました。この件につきまして、何か御意見御質問等ありませんか。
全委員	(なし)
山本座長	特に意見がないようでしたら、最後に、意見交換の場とします。本日の議題全般を通じて、何か御意見、御質問等はありませんか。せっかくの機会ですので、委員の皆様の率直な御意見、御提案等を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いします。また、会議後に気付いた点等がありしたら、随時、事務局まで御連絡いただきましたら、可能な限り対応していきたいと思います。なければ以上で本日の議題全てが終了となります。皆様方御協力により会がスムーズに終了しましたこと、お礼申し上げます。
藤田室長	事務局から事務連絡及びお願いがあります。現在、愛南町では、令和8年度から令和11年度までを計画期間とする第三次愛南町総合計画後期基本計画の策定を進めています。 その計画策定に当たりまして、住民の方々から広く意見、意向をお聞きし、計画内容へ反映させる必要があります。この場をお借りしまして、皆様から御意見を頂戴したく存じます。せっかくの機会ですので、委員の皆様から率直な御意見をいただきたいと思いますが、何かありませんか。御意見等につきましては、お配りしているアンケート用紙に御記入の上、後日、郵送でも対応しています。もしコメント等何かありましたら、8月29日金曜日までに返信封筒にて御提出していただいたらと思いますので、御協力のほどよろしくお願いします。事務局からは以上です。 ここで、当初から海業推進会議に携わり、御尽力をいただきました南宇和金融協会会長の佐伯委員が異動となりましたので、御挨拶をお願いします。
佐伯委員	愛南町で3年間、海業の推進についていろいろと関わらせていただきました。愛南町には魅力がたくさんあり、なかなかまとまりにくい中で海業という一つのキーワードでまとめることができたのではないかと感じています。Umidasも発足し、中村町長の新体制で、非常に前向きに海業に取り組める土台ができたところで異動となり、非常に残念ではありますが、愛南町はここからだと思いますので、是非皆さん力を合わせて頑張って

発言者	発言内容
藤田室長	いただけたらと思います。私も異動先でもできることがあれば協力していきたいと思います。ありがとうございました。 以上をもちまして、第9回海業推進会議を終了します。 今後も引き続き、本町の海業に御尽力賜りますよう、よろしくお願い致します。